

県 営 体 育 館

第 1 節 概 要

1 施設の利用状況

昭和39年9月1日当体育館が開館されて以来2年有余を経過したが、この間施設利用に対する普及とともに全体的な行事も開催され漸く初期の段階をへて今後県スポーツセンターとしての役割を果たす重要な段階に到達したものと考えられる。各施設の利用状況は第3節のとおりであるが、概要は次のとおりである。

- (1) 全館貸切りの場合は、高校、一般ともに件数が伸びており使用料からみても昨年を上回っている。しかしながら冬期間の使用状況は、いぜんとしてふるわず積雪寒冷地であり、小都市でもあるためか全館貸切り行事の伸びみやみみられることは、残念なことである。
- (2) 一部貸切りについては、高校、一般のスポーツ練習に使用されているが、最近学校体育館の整備がめざましくこのため、高校のスポーツ練習については今後さらに使用減

事 項	子 算	決 算	財 源	事 業 実 績
体育館維持運営費	千円 7,803	4,902千円	使用料2,167千円 雑収入 13 県 費2,722	屋根裏鉄骨塗装工事 館内外の維持管理
競技場等維持運営費	2,430千円	2,390千円	使用料 735千円 雑収入 10 県 費1,645	陸上競技場第1種公認検定合格 陸上競技場等土地問題解決に伴う境界標柱建設 相撲場夜警員の配置 競技場等の維持管理
土湯スケート場維持管理費	831千円	840千円	使用料 1千円 県 費 839	スケート場リンク床掘改修工事 スケート場維持管理の委託

(2) 体育館利用者の練習目標設定

年度当初において利用者の練習目標として主競技場の壁面に次のような標語をかかげ心身ともに充実したスポーツの昂揚をはかった。

「標語」・健康、力と技・気力・安全

(3) 相撲場夜警員の配置

相撲場の維持管理の面から9月1日より夜警員を配置し従前よりも防火及び保全の強化を期した。

第 2 節 施設の整備

各施設ごとにあげれば次のとおりである。

1 体 育 館

ロッカー室に換気扇を取付け湿気防止と衛生面に配慮。また、屋根裏鉄骨塗装工事を実施した。

2 競 技 場 等

(1) 陸上競技場の公認検定

陸上競技場の第一種公認検定をうけるため施設・設備に努力し、検定合格に至ったことが特筆される。これは信ヶ丘陸上競技場及び付属長距離競走路について、日本陸連より第一種の競技場として公認されたが、その公認期間が昭和37年3月14日より昭和42年3月13日までの5ヶ年間であり、本年

少が予想される。

- (3) 競技場等の施設使用については、使用期間が委節的に限定され集中的に利用されるために利用者全部の使用日を満たし得なかったが極力利用日程の調整等によりできるかぎり機会の均等に努めた。

2 運営と管理

本体育館の組織は別表のとおりであるが、実際の管理運営にあたり痛感されることは他県体育館にみられる係制度の実施である。これは、別表のような分掌事務がありこれを能率的、効果的に運営するにはやはり係制度を確立しその組織を通して運営するのが最善のようである。

さて、本年は職員人事異動が次のとおり行なわれた。

4月1日付けで館長と主事、10月15日付けで出納員とそれぞれ異動し本体育館人事に清新の気がみなぎり一段とぎん新企画のもとに業務が運営された。

(1) 予算執行状況

本年度の予算規模ならびに執行状況は次のとおりである。

はその期限切れの年度となるため、継続検定を受けるべく年度当初より競技場の整備計画をたて整備に努め完了のうえ昭和41年11月27日、28日の2日間にわたり、日本陸連検定員3氏を迎えて実測検定をうけ、12月7日に至り日本陸連第一種公認を取得したものである。

当競技場の第一種公認取得までの経過概要は次のとおりである。

- 当初計上予算額 551,000円
- 補正計上予算額 473,000円
- 計 1,024,000円
- 昭和41年9月15日 付属長距離競走路（信ヶ丘陸上競技場～白石市越河町往復42.195km）の実測ならびに秆每標識確認を県陸上競技会技術員佐藤勝己氏指導のもとに県陸上競技会の協力を得て実施し、秆毎ポイント詳細図面を作成した。
- 昭和41年11月9日～11月23日 陸上競技場改修整備工事を実施した。施工者木下スポーツ建設KK

工事概要

- 3,000m 障害競走用固定障害物の改修宮繕工事
- ハンマー投げ囲え取り付け工事
- ハンマー投げ、円盤投げ、砲丸投げサークル（4ヶ所）整備工事。
- 棒高とび用砂場改修工事
- 走高とび用砂場補修工事